

2026年5月15日

各位

会社名 株式会社 デンタス
代表者名 代表取締役社長 河野 恭佑
コード番号 (6174 TOKYO PRO Market)
問合せ先 取締役管理部長 大崎 隆
電話番号 088-657-3115

2026年3月期の連結業績予想と実績値の差異 及び個別業績と前期実績値の差異に関するお知らせ

2025年5月15日付「2025年3月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」において公表した2026年3月期（2025年4月1日から2026年3月31日）の連結業績予想と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、2026年3月期の個別業績につきましても、前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期の連結業績予想と実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 1,044	百万円 39	百万円 36	百万円 33	円銭 82.67
今回実績（B）	790	△42	△43	△42	△105.95
増減額（B－A）	△254	△81	△80	△76	
増減率（％）	△24.3	－	－	－	
（参考）前期実績 （2025年3月期）	913	7	10	28	69.71

2. 業績予想修正の理由

当社が事業を営むマウスピース矯正市場は、近年のデジタル技術の進化と審美意識の高まりにより急速に拡大しており、当社におけるマウスピース矯正事業についても、2023年10月のサービス開始以降順調に契約数を伸ばしておりました。

しかしながら、2026年3月期においては以下の市場環境の変化が顕著となり、当社の売上が当初の予想を下回るものとなりました。

①競争環境の激化

低価格帯を売りにする新規参入事業者の増加や、歯科クリニック間での価格競争が激化しております。これに伴い、Web広告を中心とした新規獲得コスト（CPA）が高騰し、当初想定していた効率的な集患が困難となりました。

②消費マインドの冷え込み

昨今のインフレおよび生活コストの上昇に伴い、自由診療である歯科矯正などの高額な「選択的支出」に対し、消費者が慎重な姿勢に転じております。これにより、カウンセリングから成約に至るまでの検討期間が長期化する傾向が見られました。

これらの結果、売上においては前回予想から24.3%減の790百万円となりました。

営業利益については、上記売上減少による利益減少の結果、前回予想から81百万円の減少となり営業損失42百万円となりました。

また上記理由により、経常利益については前回予想から80百万円減少し経常損失43百万円、親会社株主に帰属する当期純利益については前回予想から76百万円減少し親会社株主に帰属する当期純損失42百万円となりました。

3. 2026年3月期の個別業績と前期実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前期実績値(A) (2025年3月期)	320	△11	△4	3	8.77
当期業績値(B) (2026年3月期)	246	△39	△37	△37	△93.66
増減額(B)－(A)	△73	△28	△33	△41	－
増減率(%)	△23.1	－	－	－	－

4. 差異が生じた理由

売上高については、2023年より開始したマウスピース矯正事業において、市場競争の激化に伴う新規契約数の減少が顕著となった結果、前期比23.1%の減少となりました。

営業利益については、上記売上減少による利益減少の結果、前期比28百万円の利益減少となり、これに伴い経常利益及び当期純利益についても、それぞれ前期比33百万円及び41百万円の利益減少となりました。

以上